

「わたしの戦争体験記」

特集

東部国民学校の思い出
佐久間孝之
(昭和二十四年卒業)

父は職業軍人で満州に赴任しており、私は満州で生まれた。昭和十三年、母と二人で谷熊に帰郷した。

昭和十八年、田原東部国民学校に入学。集団登校で、上級生

の指導の下、一宮金次郎像の前に整列し、敬礼してから各教室に入った。一年生の国語の教科

書はカタカナで行われ、習字もカタカナの授業だった。運動場

はさつまいも畑になり、上級生が作業。また、谷熊出身の外山

さん寄贈の畑には野菜を作り、父兄の方が管理してくれた。

六連百々浜で「塩せんべい」(塩で固まった砂)を集め、塩

作りの手伝いをする。イナゴ捕りもして、給食の材料とする。

二年生のころからは空襲警報が頻繁になり、警報のたびに低

学年は帰宅した。この頃になる

と都会から疎開してきた人だともいた。出征兵のお見送りを豊島駅や谷熊駅でした。また、地

震も多くあり、三年生(昭和二十年)の七月ごろからは、学校

には全く行かなくなってきたが、熊公会堂に先生が出張して来て

授業をしてくれた。八月一五日の玉音放送は、友達と近くの池

で泳いでいてラジオの放送は聞かなかった。

終戦当時の思い出

彦坂速男
(昭和十八年卒業)

東部国民学校で軍国主義教育を受けた私は、昭和十八年三月に卒業して、岡崎にある農兵隊

に志願して入隊した。基礎訓練を一月程して赤羽根に赴任し

た。赤羽根では荒れ地の開墾を手

作業でしたり、男手のない母子家庭で農作業の勤労奉仕をし

た。なぜなら夫や息子が軍隊に入隊しており、女手一人では農

作業ができなかったからだ。こ

れらが農兵隊の通常の日課だった。農兵隊では十一月八日の大勝

奉戴日(太平洋戦争開戦の日)を記憶に留めるために、毎月八

日の朝食を「絶食する日」と決めていた。この意味は、兵隊さ

んに我々の食料を送るためであつた。腹が減つてえらいところ

に来てしまったと思った。主食

はほとんど大豆で、米粒は数えるほどだった。それも茶碗一杯

だけ。月に一回来訪者が認めら

れており、父親が自転車に辛切

りや炮烙団子を積んで持つてきてくれた。これを友達と布団の

中で食べるのがいちばんうれしかった。

終戦まで農兵隊の隊員として、赤羽根で開墾作業などをし

ていた。昭和二十年八月十五日

は農場に隊員全員が集められ、ラジオで玉音放送を聞き、終戦

を知った。あくる日に農兵隊は解散して、歩いて谷熊の自宅ま

で帰った。そして現在(満九十歳)に至

っている。豊橋大空襲の記憶

山田眞子
(昭和二十三年卒業)

終戦当時、私たち家族は豊橋市小田原に住んでいた。両親、

長女、私、三女、長男、四女、五女(七か月)の八人家族で、

父親は木型の工場を経営してい

た。昭和二十年六月十九日の昼間

本を貸してもらった。六月十九

日の夜に空襲警報のサイレンが

鳴り、灯火管制で真つ暗な豊橋

市の上空にB29の編隊が来襲し、空襲が始まった。私は焼夷

弾の落ちてくるところをこの目で見た。焼夷弾が普通の家に落

ちるとすぐに家が燃えてしまっ

た。家の近くに火が回ってきた

ので、松山の跨線橋の下に逃げ

た。私が七か月の五女を背中に

負ぶり、姉が四女を抱っこして、

三女と長男の二人には手をつな

いで私たちのあとからついてく

るように言つて六人で逃げた。

母は預かった家具を火災から守

るために自宅にいたが、火が回

つてきたので後から跨線橋に逃

げてきた。ここには地下道があり、近所の人と一緒にそこに隠

れた。機関車が燃えるのを見た。皆はタオルを口にあてて煙を吸

うのを防いでいた。南無阿弥陀

仏と唱えている大人もいた

私の家は空襲によつて全部燃

えてしまった。後には大きな金

庫だけが残っていた。松山小学

校の友達から借りた本も燃えて

しまった。その後、この友達と

は会っていない。朝になつたら母親の在所(六

連の百々)から牛車で迎えが来た

ので、これに乗つて豊島(覆沢)に

ある父親の生家に向かった。田

原東部小学校には豊島での生活

が落ち着いてから、四年生に編

入して通った。そして、卒業生

となった。父親は豊橋の大空襲

の時、出征中で家にいなかった。

戦争時の体験記
鈴木芳和
(昭和二十年卒業)

私は直接戦地に行ったわけで

はないが、国内で起きた戦争中

の出来事について、生活面と内

地で特に感じた事実を書きま

す。働き手が出征した家には学童

が手伝いに行った。地元では農

業と蚕の手伝い等であった。学

校では軍事訓練に明け暮れた。

修身で教育勅語を二年から勉強

すること、体育は銃剣術、竹槍

作り、防空壕掘り。学校から帰

ると、桑の木の皮むきをして乾

燥させた。また、草を干したも

のを供出した。

成章中学校に入学したら、蔵

王山のふもとを開墾して芋の増

産を図る。また、田原駅の貨車

の荷物の積み下ろしや学校内の

防空壕掘りをした。二・三年生

は豊川海軍工廠に、四年生は地

元豊島地区にあつたセメント工

場に動員された。

いちはん印象に残っている出

来事は、終戦の前日、豊島地区